

『絵本日蓮大士御一代記』の書誌学的考察

堀 部 正 円

一 はじめに

近世における日蓮聖人伝は、多数の著述刊行が確認される。これらの伝記に対して、山上、泉氏や冠賢一氏を中心に研究が散見されるが、筆者も昨年、延宝九年に刊行された『日蓮大聖人御伝記』（以下『御伝記』と略称）の成立事情の検討と、「首書補註」を施した天保十四年版（以下「首書補註版」と略称）についての詳細な書誌学的検討を試みた。その中で、『日蓮聖人註画讃』と『御伝記』の両書を近世日蓮聖人伝の双壁と位置付けた。

筆者は本年四月、東京都八王子市の法忍寺妙義文庫に所蔵される『録内御書』の写本と古活字版についての紹介及び考察を行ったが、それに伴う調査の折、『絵本日蓮大士御一代記』（以下『御一代記』と略称）の存在を知り得た。

『御一代記』は、先述山上氏の研究で触れられているものの解説は極めて簡潔で、それ以外の詳細な研究は管見の限りの

皆無である。そこで、本稿では『御一代記』の書誌学的考察を試みて、近世日蓮聖人伝の中での位置付けを行いたいと思う。

二 『御一代記』の書誌情報

『御一代記』は、享和三年版、天保版、刊年不明版が現存している。『御一代記』は中本型読本で、五冊本と二冊本とがある。本文は冒頭の序文半丁を含めた全五十丁で、内題はなく、本稿では外題を採用した。その他の詳細な書誌情報は誌面の都合で割愛するが、筆者が確認した天保版以外の二版の中で、本稿の主旨に関わる重要な情報のみを紹介しておきたい。

まず、法忍寺妙義文庫所蔵本は刊年不明版で、刊記には「東叡山御用御書物所 江戸下谷御成道青雲堂英文藏製」とあり、他十二書肆の名が列記されている。また、「登龍丸」という感冒薬の広告が付載されている。立正大学情報メディアセン

『絵本日蓮大士御一代記』の書誌学的考察（堀部）

タ―所蔵本は、刊記に「享祿三歲次癸亥正月再板 書林 御江戸常盤橋御門本町筋下ル八町目通油町 村田屋次郎兵衛同所 鶴屋喜右衛門梓」とあり、村田屋次郎兵衛と鶴屋喜右衛門（仙鶴堂）の相版による刊行であることが分かる。なお、東京国立博物館所蔵の『割印帳』には、『御一代記』の版權は享和二年十二月に鶴屋喜右衛門が取得していることを伝えている。次に、大宣寺妙觀文庫所蔵本は二冊本だが、上巻の見返には「北尾紅翠齋筆」と記されている。北尾紅翠齋、すなわち北尾重政は、一七三九～一八二〇年に生きた画家で、多数の絵本類の挿絵を手がけた人物である⁽²⁾。

以上が調査で得られた『御一代記』の書誌情報である。

三 本書の底本をめぐって

【序文に見られる底本について】『御一代記』の成立事情を検討する素材として、本書の序文には重要な情報が記されている。すなわち、「元禄の昔年我が高祖大士の行状略伝の冊子仙鶴堂に印行して世の同志に信を得せしめし原板あり今時殊に御威光増益して其巻を覓る輩屢多し依て画者に託し始末を潤色せしめ再び梓行して一宗の女児に与へんと書林志をおこす」とある。これに従えば、元禄年間に仙鶴堂で刊行された『行状略伝』を改訂したものが『御一代記』ということになる。【玉川大学図書館所蔵『行状略伝』について】『御一代記』を

所蔵する愛知県西尾市の岩瀬文庫の目録には、

序にいう「行状略伝の冊子」は「日蓮聖人行状略伝」1冊（版：玉川大）か

と指摘している。この指摘をもとに、筆者は玉川大学図書館に所蔵される『日蓮聖人行状略伝』（以下「玉川本」と略称）を調査確認した。結論から述べると、玉川本は二冊本『御一代記』の上巻であった。玉川本の表紙は後補のもので、恐らく入手した際には既に題箋が損失していたと思われる。上述のように『御一代記』は内題が存在しないため、題箋がなければ題名が判然としない。玉川大学図書館では、独自の外装に題箋を貼付しているが、そこには「日蓮聖人行状略伝（仮題）」と記されていた。序に記された「元禄の昔年我が高祖大士の行状略伝」との一文を元に、とりあえず「仮題」として『行状略伝』の名を付したと思われる。整理のご苦労さが伝わってくる。

以上の調査により、玉川本が『御一代記』の底本でない以上、現時点で元禄刊行の仙鶴堂版『行状略伝』は確認されないことになる。いずれ発見されることを望みたいが、筆者としては以下の考察により、元禄版『行状略伝』ははじめから存在しないものと考えている。

【『御一代記』と『御伝記』との関係性】筆者は、『御一代記』を一瞥したとき、『御伝記』に類似していると思った。そこで、

双方を詳細に対照したところ、その思いは確信に変わった。両書の対照については、「『絵本日蓮大士御一代記』『日蓮大聖人御伝記』対照表」と題する表を作成した。⁽³⁾同表は、両書の章題および挿絵の対応事情を明示したものである。これを一瞥すれば、『御一代記』の章題内容すべてが『御伝記』からの抜粋であることが分かる。また、挿絵についても一点のみ『御伝記』には見られない絵が存在するものの、それ以外のすべてが『御伝記』を真似たものであった。

そこで、両書対照の一例を挙げてみたい。『御一代記』の第一章「御託胎并御誕生の事」は、『御伝記』巻一の第一「聖人系図の事付御誕生の事御託胎奇異なる事」に対応する。また、本文は長文の『御伝記』を編集して大幅に短文にしているほか、『御伝記』の漢字表記を『御一代記』では平仮名にして、より平易にしている様子が伺える。

高木元氏は、「読本の挿絵にも典拠がある場合が少なくないが、意図的な引用や抄録本にも注意すべきであろう。末期の中本型読本である切附本は既成のテキストの抄録を主眼としたジャンルであるが、本文の切り貼りと同時に挿絵の流用も多い」と指摘されているが、⁽⁴⁾『御一代記』も『御伝記』の挿絵・テキストを抄録・流用した読本と言えるのである。

『延宝版・首書補註版『御伝記』と『御一代記』の関係性』『御伝記』と『御一代記』との刊行年代を順を追って列記すると、

①延宝九（一六八二）年『御伝記』初版、②寛政七年（一七九五）『御伝記』二版、③享和三（一八〇三）年『御一代記』村田屋・鶴屋相版、④文化十三（一八一六）年『御伝記』三版、⑤天保十四（一八四三）年『御伝記』首書補註版、⑥天保年間（一八三〇～一八一四）『御一代記』、⑦刊年不明『御一代記』英文蔵版、となる。このうち、⑤『御伝記』の首書補註版以前に『御一代記』が刊行されているが、果たして『御一代記』が首書補註版に何らかの影響を与えたのであろうか。これについて、本文と挿絵の対照から考察を試みたい。

まず、本文について一例を挙げれば、『御伝記』初版の巻一第一にある「面貌うつくしくかたち世の人にすぐれたり」との一文は、『御一代記』でも同文である。しかし、首書補註版では「面貌嚴毅容儀挺特とて状世の人にすぐれたり」（傍点筆者註）と改められている。この他、対比を行ったが、『御一代記』は延宝版に準拠していることは明らかであった。

次に挿絵である。『御伝記』初版より首書補註版で改訂された挿絵は五点確認される。そのうち『御一代記』では三点使用されている。『御伝記』巻五―二十八丁裏には日蓮聖人が佐渡在島中、赦免の先相として白い鳥が現れた図を描いている。初版では鳥を描き忘れており、天保版ではそれを補っている。『御一代記』は鳥が描かれているから、天保版に似ている。但し、鳥の描き方が異なることや、『御一代記』の

『絵本日蓮大士御一代記』の書誌学的考察（堀 部）

他図では明らかに初版『御伝記』に酷似していること、また筆者は多くの初版『御伝記』を調査した中で未だ確認できてはいないものの、初刷に極めて近い本には烏が描画されていた可能性も想定できうる。このようにあらゆる点を考慮したとき、『御一代記』が首書補註版に与えた影響は皆無といえるのではなからうか。

【刊年不明英文蔵版について】刊年不明の英文蔵版について一言しておきたい。加藤定彦氏によると、英文蔵の活動時期は、文化後期（一八一八）から明治中期までと指摘されている。⁽⁵⁾これに従えば、英文蔵によって刊行された刊年不明版は、前項の『御一代記』『御伝記』の成立順序の中でも早く③と④の間以降に刊行されたことになる。したがって、享和三年版が初版となり、刊年不明版は享和三年版の再版であることを明示しておきたい。

四 小 結

以上、『御一代記』について、書誌学的視座より考察を試みた。本稿では、『御一代記』が延宝九年刊行の『御伝記』を底本とし、それを要約訂正し平易な本として刊行されたものと指摘した。これにより、『御一代記』の「原板」と称する元禄年中刊行の「行状略伝」は存在しないこと、そしてこれらのすべては『御一代記』の初版であろう享和三年版の刊

行書肆・仙鶴堂がキーワードとなっていることなどを論じてきた。

今回、『御一代記』を書誌学的視点より論じること、少なからず刊行意義や価値を見いだせたと思う。また、『御伝記』をもとに成立した読本の存在を指摘できたことで、『註画讃』と『御伝記』は近世日蓮聖人伝の双璧」との私見も、さらに補強されたものと信じている。

1 拙著『法忍寺妙義文庫蔵録内御書の写本と古活字版』（二〇二二年、法忍寺刊）。

2 鈴木重三稿「北尾重政」（『日本古典文学大事典』）参照。

3 発表時配布。本稿では紙数の都合で割愛した。

4 高木元稿「読本に於ける挿絵の位相」（『國文學解釈と鑑賞』七五巻八号所収、二〇一〇年）。

5 加藤定彦稿「英文蔵」（『日本古典籍書誌学辞典』）参照。

【付記】法忍寺住職・水谷慈浄師をはじめ、富士学林図書館、大宣寺妙観文庫、玉川大学図書館、立正大学情報メディアセンターには、貴重な蔵書の閲覧・使用のご許可をいただいた。謹んで御礼申し上げる。

〈キーワード〉『絵本日蓮大士御一代記』、『日蓮大聖人御伝記』、読本、仙鶴堂

（立正大学大学院修了）